

 評価のポイント

## CL-4. 専門的、倫理的、法的な実践能力

## [94-4] 倫理的課題解決のチーム支援（事例）：病院倫理委員会への提示

**1. これまでの経験の中で、倫理委員会に提示したい事例を考えてみてください**

✓ 簡単な概要で結構です

✓ 個人情報に配慮してください

以下のようなケースの中から事例が挙げられる（以下が正解というわけではない）

- ① 多職種による検討が有効なケース  
現場が対応に困っている、ジレンマを感じているなど
- ② 施設方針（施設倫理）との適合確認ケース  
終末期ガイドラインや脳死判定・臓器提供のガイドラインなど
- ③ 外部専門家の意見が必要なケース  
治療に関わる宗教的な問題、  
死亡リスクのある患者が「家族には知らせないで欲しい」など
- ④ 法的対応が考えられるケース  
暴言・暴力、迷惑行為など

**2. その事例を倫理委員会に提示することで、どんなことを期待しますか？**

✓ 講義スライド「現場事例を倫理委員会で検討する意義」を参考にしても良いし、それ以外のことでも構いません

以下のような視点から期待する理由が挙げられる（以下が正解というわけではない）

- ① 倫理的視点を切り口として多職種で検討できる（多角的視点）
- ② お互いの傾向を知ることができる（自分の傾向に気付く）
- ③ 多職種で話し合う文化が醸成される（組織文化の醸成）
- ④ より良い治療、ケアを提供できる組織に成長できる（患者ケアの向上）
- ⑤ 現場の葛藤を個人や部署に留めない（組織の問題として捉える）
- ⑥ 外部リソースの活用／法的視点で検討できる（医療安全との協働）